

# ツボジョーワールドへようこそ

—発見！ 岡山の魅カー—



ノートルダム清心女子大学 日本語日本文学科

「ツボジョーワールド探検隊」による 坪田譲治紹介冊子

## はじめに

坪田譲治紹介冊子『ツボジョーワールドへようこそ——発見！ 岡山の魅力——』を手にとっていただき、ありがとうございます。  
「ツボジョー」とは何だろうと思われた方もおられるでしょうが、これは坪田譲治の愛称です。

私たちノートルダム清心女子大学日本語日本文学科の学生による「ツボジョーワールド探検隊」は、一人でも多くの皆様に坪田譲治について知っていただきたいと願い、この冊子を作成しました。

坪田譲治は、岡山市が生んだ、全国的な活躍をした小説家・児童文学作家であり、岡山市の名誉市民です。坪田譲治が描く作品には、岡山を舞台とした作品が多く、地域の人と自然が織りなす心豊かな情感が描かれています。坪田譲治がどのように生き、どのような作品を描いたのかを、現代の私たちが広く共有していくことで、これからの時代を豊かに生きることができるとは私たちが今勉強中ですが、これから多くの人とともに味わっていききたいと思っています。

## 目次

知ろう！ 坪田譲治の生涯

譲治の思い出アルバム

地図——譲治の愛した地元——

坪田譲治コレクション

作品紹介——ツボジョーワールドへのご招待——

世界とつながる譲治の作品

譲治の想いを受け継ごう！  
——「坪田譲治文学賞」とともに——

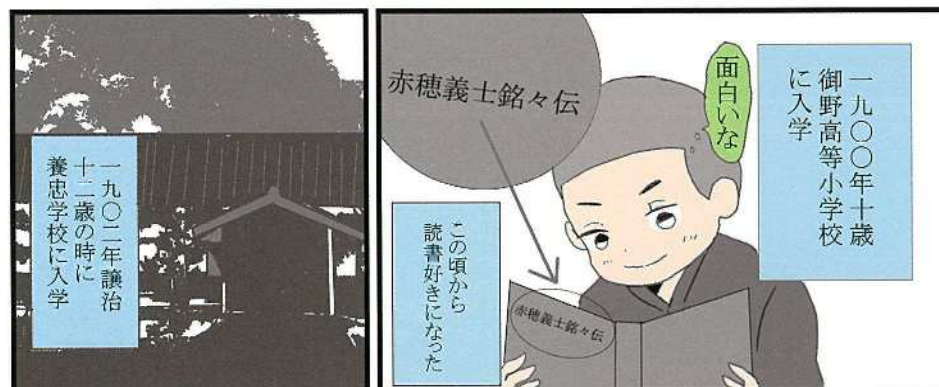
テーマソング「譲治のおかやま」

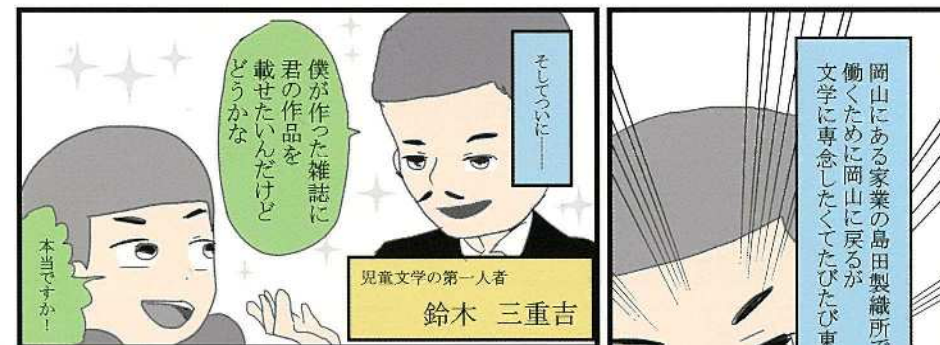
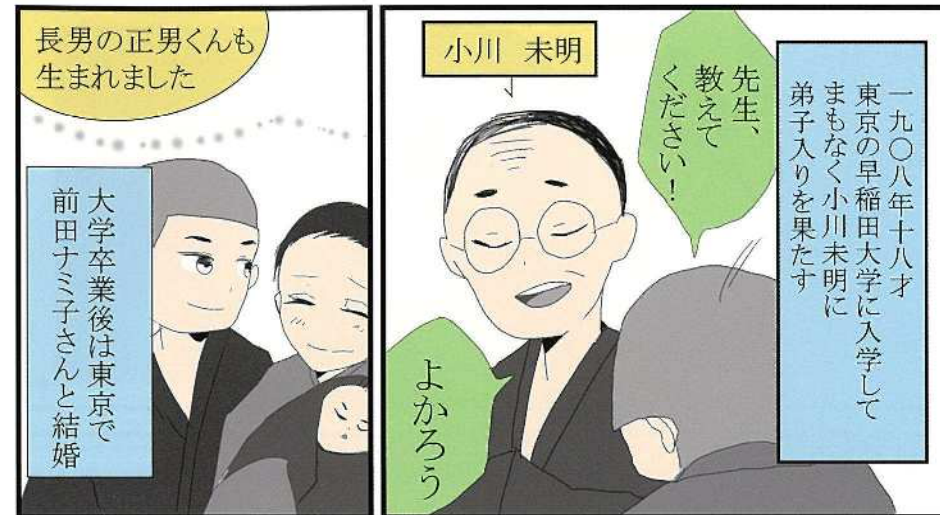
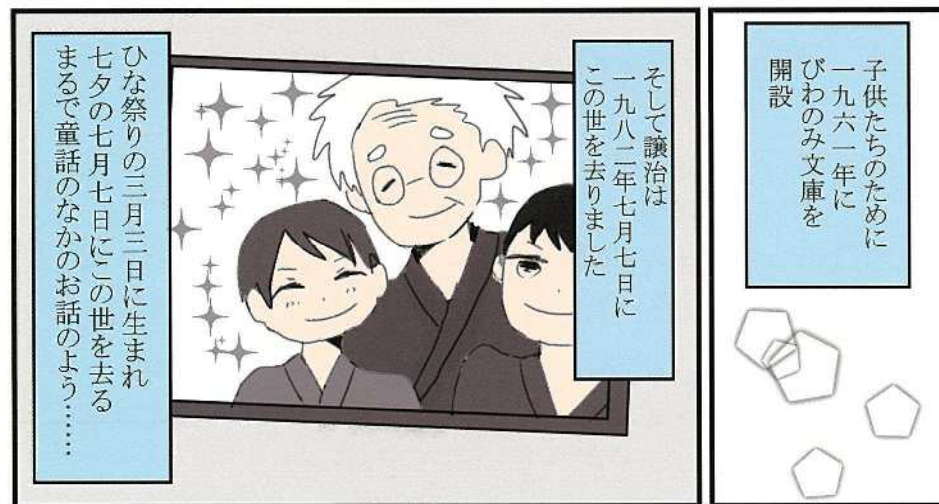
2 7 9 13 15 17 18 19

## 知ろう！ 坪田譲治の生涯(年譜)

|          |                             |                                                       |                                         |                                        |                                           |                                 |             |                                    |                             |                                       |                            |                            |                                       |
|----------|-----------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------|-------------|------------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------------------|
| 昭和 57 年  | 昭和 36 年                     | 昭和 10 年                                               | 昭和 8 年                                  | 昭和 2 年                                 | 大正 8 年                                    | 大正 5 年                          | 大正 4 年      | 明治 41 年                            | 明治 40 年                     | 明治 35 年                               | 明治 33 年                    | 明治 29 年                    | 明治 23 年                               |
| (1982)   | (1961)                      | (1935)                                                | (1933)                                  | (1927)                                 | (1919)                                    | (1916)                          | (1915)      | (1908)                             | (1907)                      | (1902)                                | (1900)                     | (1896)                     | (1890)                                |
| 92 歳     | 71 歳                        | 45 歳                                                  | 43 歳                                    | 37 歳                                   | 29 歳                                      | 26 歳                            | 25 歳        | 18 歳                               | 17 歳                        | 12 歳                                  | 10 歳                       | 6 歳                        | 0 歳                                   |
| 七月七日、永眠。 | 七月、自宅の敷地内にて家庭文庫「びわのみ文庫」を開設。 | 三月、「改造」に発表された小説「お化けの世界」が好評。<br>七月、最初の童話集「魔法」(健文社)を刊行。 | 七月、株主総会にて島田製織所取締役を解任され、上京。文筆のみでの生活を始める。 | 六月、鈴木三重吉が主宰する童話雑誌「赤い鳥」に寄稿を始め、童話を書き始める。 | 四月、母や兄の要請により、家業の島田製織所の仕事に従事するため、単身で岡山に帰る。 | 二月、前田ナミ子と結婚。現・東京都豊島区西池袋に新居を構える。 | 六月、早稲田大学卒業。 | 四月、早稲田大学文科予科入学。小川未明に師事して、小説を書き始める。 | 三月、金川中学校(現・岡山県立岡山御津高等学校)卒業。 | 三月、石井小学校高等科(現・岡山市立石井小学校)卒業。四月、養忠学校入学。 | 四月、御野高等小学校(現・岡山市立御野小学校)入学。 | 四月、石井尋常小学校(現・岡山市立石井小学校)入学。 | 三月三日、岡山県御野郡石井村大字島田(現・岡山市北区島田本町)に生まれる。 |

坪田譲治は18歳で上京し、ほとんどの作品は東京で執筆されましたが、岡山での幼少体験が作品に多く描かれています。





# 譲治の思い出アルバム



橋はほぼ  
当時のまま

みかげ石

## エヘンの橋

譲治の父が「エヘン」と咳払いをしてこの橋を渡り、  
帰宅を知らせていたことから譲治がつけた名前。

「食事の用意をするように」という母への合図だった。

「わたしが生まれた家の東北のかどにある橋の話をいたしましょう。  
それは横幅が二メートル、縦の長さが三メートル。いや、もっと  
小さかったかもしれません。みかげ石でできています。わたしが  
生まれる前からそこにかかっていたのですから、百さい二百さい、  
あるいは、もっと年をとっているのかもしれません。」

(「エヘンの橋」)



今日は  
何匹釣れるかなあ

いんの  
入野池

釣りで癒される譲治

姉の嫁ぎ先の伊丹家にたびたび滞在した譲治は  
ここで釣りをしていた。

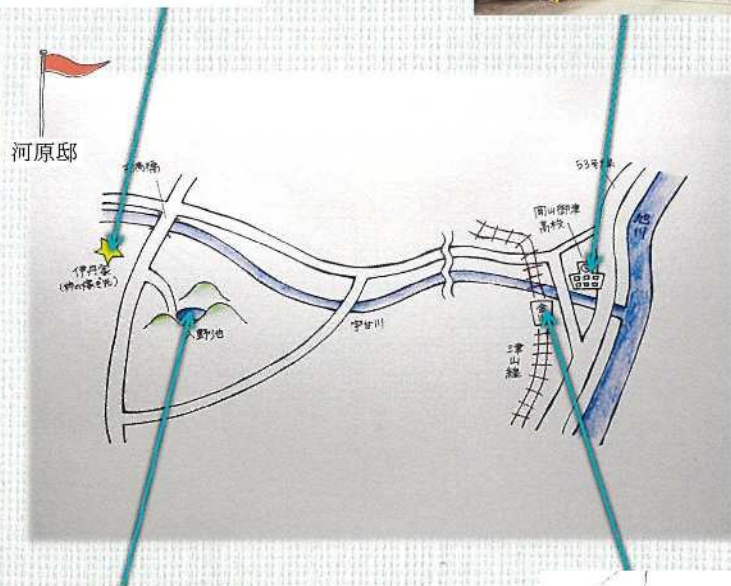
「私が釣りを始めたのは一昨々年の夏からであった。  
姉の嫁いでいる岡山の奥五里、山中の小さな池で、  
姉の子供のお供をして、小さな鮒を釣ったのがやみ付きであった。」  
(「夢に釣る魚」)

岡山県立岡山御津高校  
譲治が通っていた金川中学。  
現在は岡山御津高校です。

御津

### 伊丹家の屋敷跡

朽ちかけた土塀に囲まれ、かろうじて蔵と離れが残されています。  
伊丹家は、代々開業医で、譲治の姉、政野が嫁いだ家です。



### 入野池

譲治は、姉が嫁いってから、よく伊丹家に泊まりに来ては、山の池で釣り糸をたれていたそうです。



金川駅

## 地図

譲治の愛した地元

## 岡山広域



岡山大学  
旧岡山第十七師団  
明治41年、一年志願兵として入隊しました。

県総合グラウンド  
練兵場跡地  
譲治が志願兵として訓練していました。

ノートルダム清心女子大学

奉還町商店街

坪田譲治子どもの館

ブロンズ像

岡西公民館

島田

石井小学校

生家跡

旧御野高等学校  
譲治が1年だけ通った小学校です。

津山線

九曲川

山陽新幹線

後楽園

禁酒会館

岡山県立図書館

養忠学校跡

1年間通った後に金川に移転します。

表町商店街

岡山市立中央図書館

坪田譲治文学碑

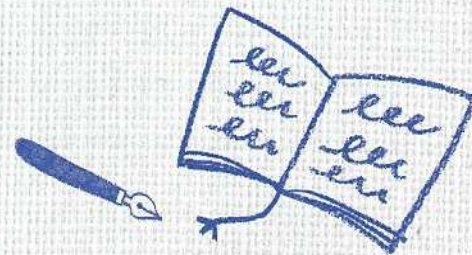
図書館2階に譲治の資料を展示しています。

### ツボジョークイズ!!①

坪田譲治の出身の

地名は?

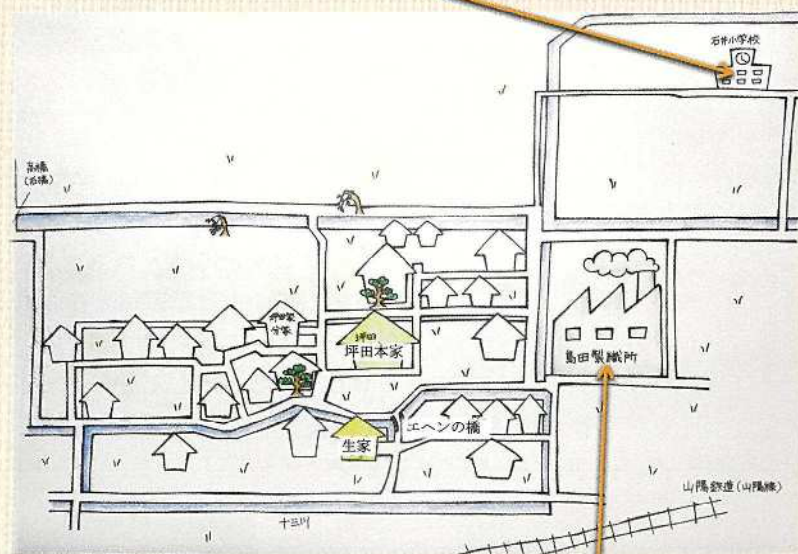
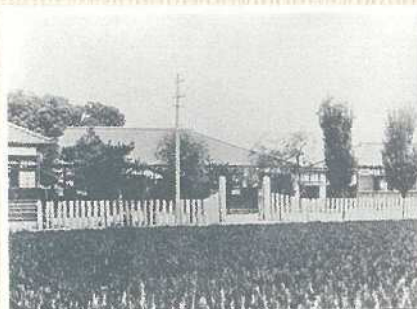
→答えは20ページ



## 過去

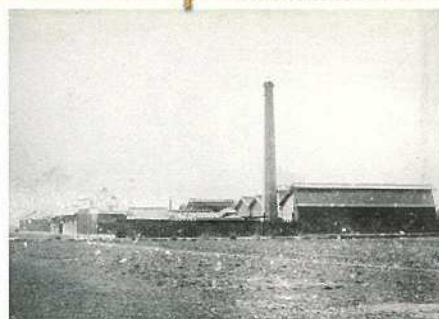
### 石井小学校

明治35年、石井小学校を卒業し、童話作家として活躍した譲治は、母校「石井小学校」のことを、いつまでも忘れませんでした。



### 島田製織所

明治13年に譲治の父が建てた工場です。石油ランプの芯を作っていました。



## 現在

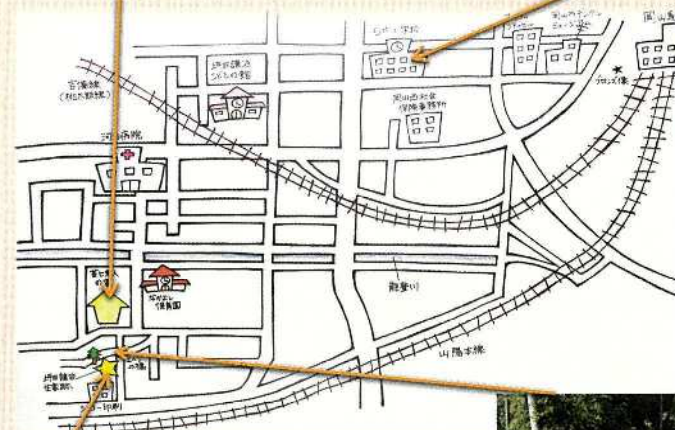
### 坪田本家

生家跡の道をへだてて、坪田本家があります。



### 石井小学校

場所は昔と同じ所にあります。譲治が通っていたころのことが想像されます。



### 生家跡のくすのき

この木は、樹齢百年を超えます。過ぎし日の坪田家を見守るように、緑の葉が四方に伸びています。



### エヘンの橋

「エヘンの橋」とは、生家の北側を流れる小川にかかった小さな石橋です。

## 生家の模型



100 分の 1 模型。  
清心女子大から最も近い  
文学者の生家です。  
生家跡地は島田本町（岡山市北区）  
にあります。



坪田本家や、実家が経営していた工場、  
後樂園を写したパノラマ写真。  
当時（大正 11 年ごろ）では珍しい！



拡大！！



## パノラマ写真



（坪田本家）

## 坪田譲治コレクション



ノートルダム清心女子大学創立 60 周年を記念して  
2009 年に開設されました。

そしてコレクション 7 周年の 2016 年に新設コーナーが  
大学図書館内に設けられました。

この坪田譲治コレクションには、  
清心女子大が収集していた自筆原稿や初版本に加えて、  
「びわのみ文庫」解体時に譲り受けたもの、  
本家の方が寄贈して下さったものがあります。

坪田譲治の作品の展示。  
初版本などがあります。

## 坪田作品



### ツボジョークイズ！！②

坪田譲治の誕生日は？

- (1) 3月3日
- (2) 5月5日
- (3) 7月7日

→答えは 20 ページ



# 『子供の四季』

甚七老人と三平の温かな交流を通して  
逆境を乗り越えていくところが見所です。  
舞台は島田と牧石（現・岡山市北区）。

二作品とも、子供の純真無垢で天真爛漫な姿が描かれています。

現地へ行ってみると、坪田作品の世界を深く感じることが出来ます。



## ツボジョークイズ！！③

三部作といえば？

「風の中の子供」

「子供の四季」

「？」

→答えは20ページ

## 作品紹介

### —ツボジョーワールドへのご招待—



# 『風の中の子供』

善太、三平の兄弟が、厳しい大人の現実世界に  
負けず生きていきます。

生家のある島田や姉の嫁ぎ先の天満

（現・岡山市北区御津紙工）を思わせる描写があります。



「家族のあたたかさと  
地域の素晴らしい自然環境を  
わかりやすく表現する  
懐かしい物語です。」(Bowes 先生)

英訳をしたKate Bowes先生は、  
イギリス国籍、ジンバブエ育ち。  
訳していて日本の「ふるさと」  
という歌を思い出し、  
郷愁の思いが湧いたとのこと。

## “The Story of a Kappa”

Drinking tea, after supper, Grandpa would always fall into a contented, thoughtful silence. In fact, he was itching to tell his grandsons a story just as he had the evening before, and the evening before that, too. The boys were used to this and this was why, that evening, the three of them were sitting by Grandpa, behaving themselves and waiting for him to start.

“Grandpa, how about telling us a story . . . ?”

...

“His legs weren't human. The nails of his toes were so sharp and long. His legs had wet hair on them. And yet, I couldn't control my desire to sneak a peek at his face. Oh! That didn't look human, either. His head was covered with a lotus leaf, and the long hair on his head hung over his face. His eyes were oddly round and they peeped through the hair. I couldn't move.”

“What did you do next?”  
Shota and Zena asked him, leaning forward.

Kate Bowes 先生・足立萬壽子先生共訳

## 「河童の話」

晩のごはんがすむと、あとのお茶を飲みながら、おじいさんは、うれしそうになんだか考えこんでおりました。おじいさんは、じつはきょうも話があったのです。子どもらも、おじいさんのその顔を待っていました。だから、ごはんがすんでも、三人とも、おじいさんのそばで、おとなしくすわっていました。

「おじいさん、話は……。」

(中略)

「その足は、人間の足じゃないんだ。ツメがするどくのびていてね、水にぬれた毛が生えていた。またね、おじいさんに見るともなく見えるその顔が、人間の顔でないらしいんだ。ハスの葉っぱをかぶっている頭から長い毛がのびているし、まんまるい目もその間からぞいでいる。おじいさんはもうどうもできなくなってしまうった。」

「どうしたの、それから。」

正太も善太も、ここでひざをのり出してききました。

(『坪田譲治童話全集』第1巻 岩崎書店)

## 坪田譲治の想いを受け継ぐ！

### 「坪田譲治文学賞」とともに

「坪田譲治文学賞」は坪田譲治の亡くなった二年後の一九八四年十二月に、岡山市が制定した文学賞です。岡山市出身で多くの小説・児童文学を作った岡山市名誉市民である坪田譲治の素晴らしいことを伝えていくことと、市民の文化向上を目的として、この文学賞が作られました。出版された本のなかから、大人も子どもも楽しむことができる素晴らしい作品が、五木寛之さんらの選考委員によって、毎年一点選ばれています。



受賞作品には、人間の絆を描いた笹山久三の『四万十川 あつよしの夏』、「いじめ」と「家族」をテーマにした重松清『ナイフ』、児童虐待をテーマにした中脇初枝『きみはいい子』などがあります。

坪田譲治は、松谷みよ子やあまんきみこなど数多くの児童文学作家を育てました。さらに、育てた児童文学作家が作品を発表できる場をつくるため、『びわの実学校』という雑誌を発行するなど、作家を育てることへの努力を惜しみませんでした。

こうした坪田譲治の作家を育てようとする熱い想いを私たちもともにして、岡山市を愛する私たちがこれからも受け継いでいくことが必要なのだと考えます。岡山市に関わる者として、「坪田譲治文学賞」へのこうした認識を改めて持ち、坪田譲治のまなざしとともに感じながら、今後も毎年、受賞する作品を楽しみにしたいと思います。

# 譲治のおかやま

山根 知子 作詩  
串田 果奈 作曲

♩=106 *mp*

1. たんぼ の な け に ち い さ な む ら て き ら め ひ  
が わ に お が わ て い く す じ も な が れ る み な よ

9 そ こ に は も が ゆ れ て ど ん こ つ も く つ ろ い で い る ひ の  
そ い み ず が み ち み ち れ かい つ ぶ り も や す ら い

13 く れ か ら ま で あ そ ん だ し ま だ ら か っ ば や き つ ね が で て く る ま え に と  
が わ か ら し ま だ へ か わ は っ な が ら み ら い の ゆ め や こ こ ろ ぎ し と も と

17 *mp* *mf*  
か え ろ う ほん と に と う げ ん 一 き ょう と は  
か た ろ う

21 こ こ だ っ た ん だ よ し ぜ ん の お お き な い の ち に

25 1.  
つ な が っ て し あ わ せ を は ぐ く む

29 *mp* 2. *f*  
じ ょ う じ の お か や ま 2. も も し あ わ せ を は

33 *rit.*  
一 ぐ く む じ ょ う じ の お か や ま

## 譲治のおかやま

一 島田 小学校時代

田んぼのなかの小さな村  
きらめく小川が幾筋も流れる  
水底には藻がゆれ  
ドンコツもくつろいでいる  
日の暮れかかるまで 遊んだ島田  
河童や狐が出てくる前に帰ろう  
本当に桃源郷とはここだったんだよ  
自然の大きないのちにつながって  
しあわせを育む 譲治のおかやま

二 金川 中学校時代

桃の畑にかこまれて  
旭川に沿って列車は走る  
清い水が満ち満ちて  
カイツブリも安らいでいる  
金川から島田へ 川はつながる  
未来の夢や志 友と語ろう  
本当に桃源郷とはここだったんだよ  
自然の大きないのちにつながって  
しあわせを育む 譲治のおかやま

ソボジョークイズ答え

- ① 島田
- ② (1)3月3日
- ③ お化けの世界

最後まで読んでくださり、

ありがとうございました

★お世話になった方々

坪田 理基男さん

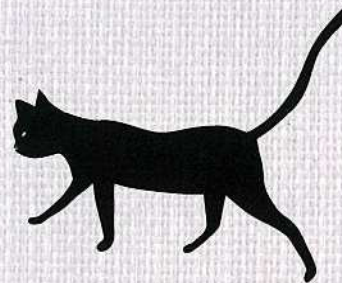
「文学と岡山」製作委員会

木山 博雅先生(ノートルダム清心女子大学客員教授)

Kate Boves 先生(ノートルダム清心女子大学准教授)

足立 萬壽子先生(元ノートルダム清心女子大学教授)

熊澤 住子先生(ノートルダム清心女子大学教授)



★「ツボジョーワールド探検隊」スタッフ

ノートルダム清心女子大学 日本語日本文学科

三回生

岸 智代

川崎 愛子

川崎 裕貴

串田 果奈

橋本 悠理香

藤岡 由実

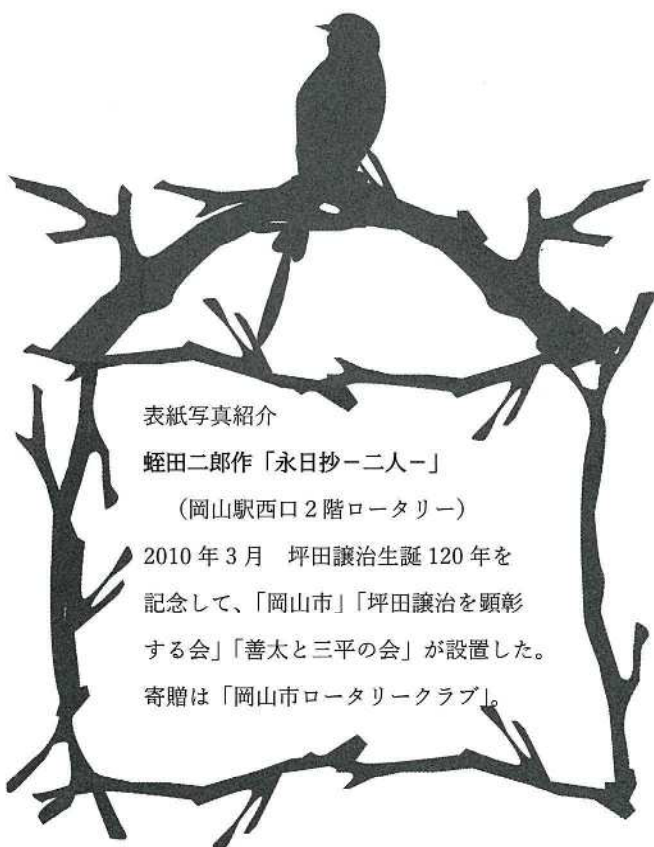
山根 知子先生(監修)

久しぶりに訪れた生家の玄関で子どもたちと楽しむ譲治



発行日 二〇一七年八月二十五日  
発行者 「ツボジョーワールド探検隊」  
編集部

代表 山根 知子



表紙写真紹介

蛭田二郎作「永日抄-二人-」

(岡山駅西口2階ロータリー)

2010年3月 坪田譲治生誕120年を  
記念して、「岡山市」「坪田譲治を顕彰  
する会」「善太と三平の会」が設置した。

寄贈は「岡山市ロータリークラブ」。